

たんぱく質の濃度から

福島医大など研究チーム世界初



田辺隼人
准教授



島袋充生
主任教授

れ尿中に排出される「尿中タイチン」が、加齢などによって筋肉量や身体機能が低下し、フレイル（虚弱）や要介護状態を招く。「サルコペニア」の発症を予測する指標であることを世界で初めて明らかにした。

福島医大糖尿病内分泌代謝内科学講座の田辺隼人准教授、島袋充生主任教授らの研究チームは、糖尿病の人の将来の筋力低下リスクを、「尿中タイチン」というたんぱく質の濃度を調べることでも予測できることを明らかにした。リスク予想に関する信頼性の高い指標はこれまで存在しなかったが、簡単な尿検査によって筋力低下の兆しが数年前から捉えられるようになり、一人一人に合った予防や治療につなげられるという。

研究チームは医大と徳島大、神戸大で構成。筋損傷が生じると血液中に放出さ

するが、診断の難しさも指摘されているという。

糖尿病の人はサルコペニアが進行しやすいことが知られているが、発症を早期に予測できる信頼性の高い指標はなかった。研究で尿中タイチンが指標になることが分かり、数年後のリスク予測も含め明確に診断できるようになるという。

研究成果は8月25日付で、米国糖尿病学会が発行する糖尿病内分泌分野のトップジャーナル「ダイアベティス・ケア」に掲載された。

若松の観光

24年 前年比

会津若松市の昨年の観光

客の入り込み数は約263

万人で、前年と比べて30万

人以上増加した。新型コロナ

ウイルス禍前の2019

年の87%だった。8日、市

議会9月会議の一般質問で

室井照平市長が答弁した。

市は増加した要因について、コロナの影響から回復

基調にあることやインバウ